

生きることへの愛——不治の致命的慢性病から見て

ソフィー・バステイアン

【要旨】

今学会のテーマである生きることへの愛について、カミュの創作作品、および必要に応じて随想や書簡集からも引用しつつ分析する。生きることへの愛は有限性の意識でもあることを念頭に、この2つの感情の関係を考察し、死がそのままに人を訪れることを作家はどのように表現しているのか、そこにはいかなる心の動きと調べが伴っているかを検討する。



【プロフィール】ソフィー・バステイアン・カナダ・ロイヤル・ミリタリー・カレッジ教授。2004年から現職。共同研究「シュールレアリスム演劇」の成果を『演劇年鑑』第59号(2016年)に発表。論集『芸術家カミュ』(2015年)『シュールレアリスムと舞台芸術』(2014年)『演劇への情熱、舞台の上のカミュ』(2011年)の共同編者。単著『カリギュラとカミュ、歴史を超えた干渉』で2007年カナダ大学フランス語教授連合賞を受賞。ケベック文学および映画についても研究している。2015年から2018年までケベック演劇研究会会長を務め、約50本の論文や共著書を発表するとともに、複数の学際シンポジウムの共同企画に携わった。また、各種研究機関や出版社、国際誌、カナダおよび海外の大学において、審査・評価の仕事を行っている。